

すべての人に伝わること： 遠隔コミュニケーション下でのろう者と聴者の よりよいコミュニケーション環境の構築

国立情報学研究所
さががけ「情報環境と人」1期生
坊農真弓

平成25年10月15日(火)一ツ橋記念講堂
情報学による未来社会のデザイン～健全でスマートな社会システムに向けて～
第二回 情報学が拓くヘルス&ウェルネス

本発表

- * 先日行った異分野融合ワークショップ『手話・社会・技術』の報告
- * 手話会話における身体性(視線の使い方と順番交替)について議論

異分野融合ワークショップ『手話・社会・技術』(2013.9.19)

主催：
JSPS異分野融合による方法的革新を目指した人文・社会科学推進事業
「手話コミュニティにおける遠隔コミュニケーション環境の提案」(代表者：坊農真弓)(H21-H26)
けいはんな情報通信オープンラボ研究推進協議会



双方向4K超高精細映像
伝送システムで接続

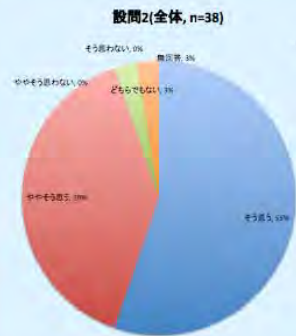


手話コミュニティでいま何が起
こっているのか、社会はそれを
どのように受け止めるべきか、
技術はいかに支援できるのか
について、手話を日常言語とす
る人々、手話を研究する人々、
最先端の技術を作る人々などが
議論する場を提供



映像記録と一般アンケート結果

一般アンケートの結果の一部から見える『情報環境と人』



有効回答率: 71%
 設問2: 今回のワークショップはとても楽しめた
 設問5: 4Kシステムは手話コミュニティに有効だ
 設問6: 4Kシステムでの手話は通常のハイビジョン映像より読み取りやすい
 設問7: スクリーン、カメラ、登壇者、観客席等の配置は適切だった

意図的に両会場の空間配置と手話通訳環境に差を加える
 ↓
 「情報技術の使い方」すなわち当事者を含んだ「情報環境デザイン」の重要性を再確認

意見(自由回答, ポジティブ)

- このような研究が進んでいる事をうれしく思います(大阪)
- 4Kの技術がスマートフォンにも活用されたら、普段のビデオチャットに便利だと思った(大阪)
- 技術も上には上がある、と感心(東京)
- 手話コミュニケーションにICTの果たす役割は大変大きいと感じた。
- 早く実用化されると良いですね(東京) 等

意見(自由回答, ネガティブ)

- 真ん中にPC台?が置いてありとても邪魔だった。また、スクリーンにPPスライドが写しだされるが、暗くて見にくい。など、レイアウトや配置に問題有りもったいなく感じました。設営など、ろう者に協力してもらって欲しいです(大阪)
- 配列: もう少し見やすくしてほしい。丸くしたら見やすいのでは?TVもう少し大きくしてほしい(大阪)
- 大阪の発言者は観覧席を向いて、観覧席にカメラを設置してほしいです(話者が誰?の違和感), 東京⇔大阪での手話の会話は、一つの画面に纏めてほしいです。あっち見てこっち見てが大変でした(大阪)
- 手話通訳者の配置→スクリーン(4K)の隣が見やすいのではと思いました(東京)
- 4Kは長時間見るのは疲れた(東京)

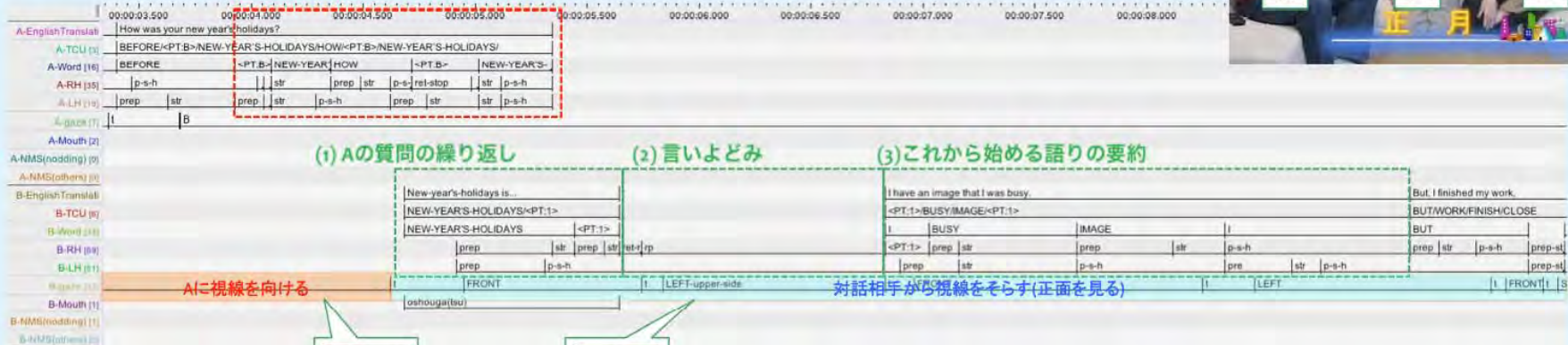
DEMO: 手話会話分析 on ELAN

手話会話における身体性: 視線の使い方と順番交替

データ

ラベル: BEFORE/ <PT:B>/ NEW-YEAR'S-HOLIDAYS/ HOW/ <PT:B>/ NEW-YEAR'S-HOLIDAYS/
 日本語訳:「お正月休みはどうだった？」

Aの質問発話の末尾で、同じ表現が繰り返されている(手話研究ではこれを「ダブリング(doubling)」と呼ぶ、日本手話のみならず、世界各国の手話言語で観察される現象)



- ・ 厳密にBの応答開始部分を観察してみると、Aの繰り返し表現の箇所では、Bは既にAから視線を外し、返答発話を開始させている。すなわち、Aの繰り返し表現を会話のリソースとして用いていない。
- ・ 手話会話では、会話参加者に予測可能な形で発話末尾が投射(project)されており、手話母語話者はその情報を使って、会話を紡いでいる。
- ・ 手話母語話者特有の視線の使い方を知り、手話会話における視線の独自の機能を明らかにする必要がある。